



JASDAQ

平成 24 年 8 月 3 日

各 位

会社名 株式会社 アイフラッグ  
代表者名 代表取締役社長 高梨宏史  
(JASDAQ・コード2759)  
問合せ先 取締役経営管理部長 仁分啓太  
電 話 03-5733-4492

## 平成 25 年 3 月期 第 1 四半期の連結業績に関する補足説明について

平成 24 年 8 月 3 日に公表いたしました「平成 25 年 3 月期 第 1 四半期決算短信〔日本基準〕(連結)」の平成 25 年 3 月期 第 1 四半期(自平成 24 年 4 月 1 日 至 平成 24 年 6 月 30 日)の連結業績の内容につきまして、下記のとおり補足説明いたします。

### 記

#### 1. 平成 25 年 3 月期 第 1 四半期の連結業績の概要

(百万円未満切り捨て)

	平成 24 年 3 月期 第 1 四半期	平成 25 年 3 月期 第 1 四半期	前年 同四半期比 増減額	前年 同四半期比 増減率	平成 25 年 3 月期 (半期) 業績予想	平成 25 年 3 月期 (半期) 業績予想 進捗率
売上高	1,593	1,011	△582	△36.5%	1,998	50.6%
売上原価	489	296	△192	△39.4%	580	51.0%
売上総利益	1,104	715	△389	△35.2%	1,417	50.5%
販売費及び一般管理費	1,189	953	△235	△19.8%	1,846	51.7%
営業利益(△損失)	△85	△238	△153	—	△428	—
経常利益(△損失)	△64	△161	△97	—	△410	—
四半期純利益(△損失)	△415	△160	+254	—	△414	—

#### (1) 平成 25 年 3 月期 第 1 四半期業績における平成 25 年 3 月期(半期)業績予想比較

売上高についても、各区分利益についても、堅調に推移しております。

#### (2) 平成 25 年 3 月期 第 1 四半期業績における前年同四半期比較

当社グループの売上高の 8 割強を占めるホームページソリューションの売上が、フロー型からストック型へのビジネスモデルの転換により減少したため、売上高が一時的に大幅に減少しております。また、その影響で、売上総利益、営業利益、及び経常利益も一時的に減少し、営業費用(売上原価並びに販売費及び一般管理費)の圧縮は進みましたが、前年同四半期比較では、営業損失・経常損失が拡大しております。なお、前年同四半期のようなビジネスモデルの転換に伴う特別損失の発生がないことから、四半期純損失は大幅に縮小いたしました。

ホームページソリューションの売上が減少した主要因は、前年同四半期においては、初期費用部分に該当する一時的な収益であるフロー売上の比率の高い旧商材 I T パッケージを販売しておりましたが、前年第 2 四半期より、月額課金部分に該当する安定的な収益であるストック売上の比率の高い新商材クラウド

パッケージを導入したことにより、それ以降、フロー売上が大幅に減少したためであります。新商材の契約顧客アカウント数の増加等により、ストック売上は増加しておりますが、新商材の販売開始から1年しか経過しておらず、契約顧客アカウント数が少ない状況であるため、ストック売上の増加分で、フロー売上の減少分を補うことがまだできず、ホームページソリューションの売上は前年同四半期比で大幅に減少しております。

## 2. 平成24年3月期 第2四半期からの連結業績の推移

(百万円未満切り捨て)

	平成24年3月期 第2四半期	平成24年3月期 第3四半期	平成24年3月期 第4四半期	平成25年3月期 第1四半期
売上高	1,037	1,151	1,068	1,011
営業費用	1,511	1,453	1,352	1,250
経常利益(△損失)	△438	△264	△283	△161

新商材クラウドパッケージの販売を開始した前年第2四半期からの連結業績の推移は、上記のとおりとなります。新商材の契約顧客アカウント数の増加等により、安定的な収益であるストック売上は順調に増加しており、また、ローコスト・オペレーションの継続推進等により、営業費用の最適化も進展しているため、一時的な収益であるフロー売上の短期的な落ち込みにより、前年第4四半期においては一時的に足踏みいたしました。経常損失は徐々に縮小し、事業構造改革が進展しております。

## 3. 今後の見通し

当社グループは、事業構造改革の2年目にあたる当期におきましても、継続的な業績の安定性・成長性を担保することで、さらなる企業価値の拡大を果たすべく、ストック売上の増加による安定的な収益構造への転換と、営業費用の最適化によるコスト構造の改善に取り組むことで、事業構造改革を推進してまいります。そして、当期において、安定したストック型ビジネスへの転換に向けた基盤構築を完了させることにより、次期以降における早期の黒字転換を目指してまいります。

以 上